平成27年度

教育研究員研究報告書

学校保健

東京都教育委員会

目 次

I	研	究主題認	定	(T)	理	由	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
Π	研究	究構想図	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
Ш	研	究の視点	į •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
IV	研	究仮説・	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
V	研究	究方法・	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
VI	研究	究内容																									
	1	基礎研	f究	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5
	2	調査研	f究	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	7
	3	実践研	F究																								
		(1) 小学	色校	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	2
		(2)中学	校校	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	5
		(3)高等	学	校	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	9
VII	研名	究のまと	ر الا		•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•		•		•	•	2	2

研究主題

自らの力で社会を生き抜いていく児童・生徒の育成

~思考力・判断力・表現力を高める保健教育~

I 研究主題設定の理由

近年における社会環境や生活環境の著しい変化は、児童・生徒の健康や生活に大きな影響を与え、健康問題は多様化・複雑化し、深刻さを増している。このような状況の中で生き抜いていくためには、学校における保健教育が重要であり、健康の保持増進を図るために必要な知識や態度を身に付け、健康問題に適切に対応する資質や能力を養うことが大切である。

学校における保健教育は、発達の段階を考慮して教育活動全体を通じて実施される。特に、心身の健康の保持増進に関する指導については、体育科、保健体育科はもとより、特別活動などにおいてもそれぞれの特質に応じて行われている。しかし、本部会研究員が所属校で共通して感じていることは、保健学習で学んだ内容が実生活で十分に生かされていないことである。また、発達の段階による違いはあるものの、自分の健康状態を自分の言葉で説明することができないという実態も見られる。例えば、けがをして保健室に来室したものの、どこが痛むのか、何が原因でけがをしたのかなど自分で説明することができず、「分からない」と答える児童・生徒がいるという現状に日々課題を感じている。

学校教育法第30条では、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」と規定されている。また、小学校、中学校、高等学校の学習指導要領総則における「教育課程編成の一般方針」では、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むとともに、発達の段階を考慮した言語活動を充実することの重要性が示されている。これからの社会を自らの力で生き抜いていくためには、保健学習で習得した知識を活用し、思考力・判断力そして表現力を身に付けさせ、多様化・複雑化する健康問題を解決する力を育む必要があると考える。これらのことは「教育課程の編成に関する基礎的研究 報告書5 社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原理」(国立教育政策研究所 平成25年3月)に提案されており、社会の変化等で生じる未知の問題に答えが出せるような思考力と、教室外の現実の問題も他者との対話を通して解決できるような実践力が21世紀を生き抜く力(21世紀型能力)として求められている。「基礎力」「思考力」「実践力」で構成されている21世紀型能力は、まさに本研究が目指す生きる力である。

以上のことから、本研究では「自らの力で社会を生き抜いていく児童・生徒の育成」を研究主題とし、「思考力・判断力・表現力を高める保健教育」を副主題に設定した。

本研究における言葉の定義

- ○保健教育…保健学習と保健指導
- ○保健学習…体育科保健領域(小学校)、保健体育科保健分野(中学校)、保健体育科科目保健(高等学校) 及び関連教科
- ○保健指導…特別活動(学級活動、児童・生徒会活動、学校行事)、保健室での指導、日常生活での指導等

Ⅱ 研究構想図

平成27年度教育研究員共通研究テーマ「思考力・判断力・表現力等を高めるための授業改善」

現状と課題

【現状】

- ・自らの健康を管理し、健康的な生活を実践する能力に課題がある。
- ・保健室には、自分の心身の問題を自分で説明できない児童・生徒が来室する。

【課題】

・保健学習で習得した基礎的・基本的な知識を活用して実践する力が不足しており、保健学 習で習得した知識が生かされていない。

学校保健部会主題

自らの力で社会を生き抜いていく児童・生徒の育成 ~思考力・判断力・表現力を高める保健教育~

研究の視点 「言語活動の充実」

1 保健学習と保健指導を関連付けた指導 2 各校種を通じた保健指導の体系化

仮説 系統性を踏まえ、言語活動の充実を図った学習を横断的に行うことで、児童・生徒は 習得した知識を活用し、健康問題に対して考え、実践することができるであろう。



研究方法

基礎研究

文献等から、保健教育に対する児 童・生徒の実態や意識を把握する。ま た、先行研究より、言語活動の充実を 目指した指導方法を検討する。指導計 画の横断化・体系化モデルを作成する。

調査研究

研究員所属校の児 ・生徒を対象に、 保健教育に関する意 識調査を行い、集 計・分析する。

実践研究

テーマを「けが」と定め、共通のテーマで系統性を踏まえた保健指導を行い、研究主題に迫るための手だてを検証する。

評価・検証方法

検証授業実施前後に、児童・生徒に保健教育に関する調査を行い、意識や実践(思考力・判断力)の変容を分析・考察する。

保健指導時に使用するワークシートや 児童・生徒の様子から、実践力(表現力等)が身に付いたかを分析・考察する。

Ⅲ 研究の視点

1 保健学習と保健指導を関連付けた指導(横断的)

小学校学習指導要領の総則に「学校における体育・健康に関する指導は、児童の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。」と示されている。中学校・高等学校の学習指導要領の総則においても同様の規定がある。しかし、現在の保健教育では、保健学習が独立して行われている傾向がある。保健学習と保健指導を関連付け、指導の一貫性をもたせることによって、児童・生徒の保健に関する実践力をより一層育むことができるのではないかと考えた。「学校保健の課題とその対応一養護教諭の職務等に関する調査結果から一」(公益財団法人日本学校保健会 平成24年3月26日)には、養護教諭が学級活動における保健指導に参画・実施することで、健康問題に関する実態を踏まえた指導ができ、実践的な方法が提示できるなど、有効性が挙げられている。保健学習で基礎的・基本的な知識を習得し、知識の基盤をつくった上に、保健指導で実践的な内容について指導することで知識の定着を図り、生活で実践する能力や態度を育成することができる。

2 各校種を通じた保健指導の体系化(系統性)

平成20年の中央教育審議会答申では、学習指導要領改善の基本方針として「小・中・高等学校を通じて系統性のある指導ができるように、子供たちの発達の段階を踏まえて保健の内容の体系化を図る。」と示されている。本部会は小・中・高等学校の養護教諭で構成されており、この特徴を生かして、系統性のある指導モデルを体系化する。そして、保健教育を体系化し、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していくための実践力(資質・能力)を育成することで、高等学校卒業後の社会を生き抜き、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる児童・生徒の育成を目標とした。

W 研究仮説

本研究では、発達の段階による「系統性を踏まえ、言語活動の充実を図った学習を横断的に行うことで、児童・生徒は習得した知識を活用し、健康問題に対して考え、実践することができるであろう。」と仮説を立て、研究を進めた。(研究のイメージ図はページ頁参照)

V 研究方法

1 基礎研究

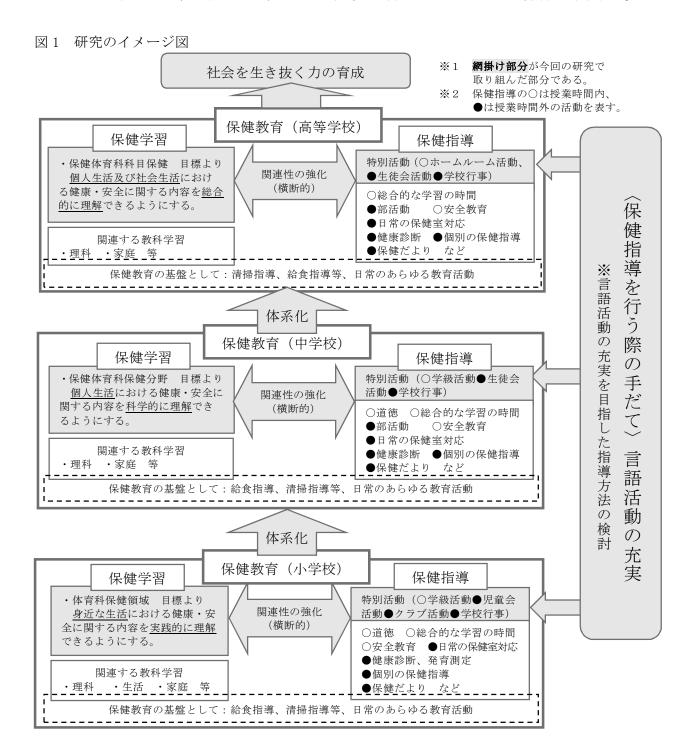
「平成22年度保健学習推進委員会報告書―第2回全国調査の結果―」(公益財団法人日本学校保健会 平成24年2月23日)(以下「保健学習推進委員会報告書」とする)を参考に、児童・生徒の保健教育に対する意欲や意識を研究する。また、「言語活動の充実に関する研究」(平成22年度・23年度東京都教職員研修センター)より、実践力を高める保健指導に言語活動を効果的に取り入れる方法を検討する。小学校・中学校・高等学校学習指導要領等の文献及び資料を参考に指導計画の横断化・体系化モデルを作成する。

2 調査研究

研究員所属校の児童・生徒(小・中・高等学校で実践研究を行う学年)を対象に、検証授業実施前後に保健教育に関する意識調査を行い、児童・生徒の保健教育に対する意識の変容を調査し、仮説の検証を図る。

3 実践研究

小・中・高等学校でテーマを「けが」と定め、共通のテーマで一貫性のある保健指導を行い、研究主題に迫るための授業を行い、手だてを検証する。また、保健指導で使用するワークシートや児童・生徒の様子から、実践力(表現力等)が身に付いたかを分析・考察する。



VI 研究内容

1 基礎研究

(1) 保健教育に対する児童・生徒の実態

「保健学習推進委員会報告書」から、児童・生徒の85%以上が保健学習は大切だと回答しており、保健学習の「価値」に対する意識は高い。保健学習が今の生活や今後の健康的な生活を送るのに役立つという「期待」についても、70%程度が肯定的である。一方で、保健学習が好き、楽しいと回答している児童・生徒は、小学校第5学年は60%程度であったが、中学校第1学年以降は40%程度であった。学年が上がるにつれ、保健学習に対する「感情」についてはやや低めになると考えられる。「日常生活における実践状況」では、自分の生活等について振り返っている児童・生徒は小学校第5学年が最も高く59.0%であったが、中学校第1学年39.9%、高等学校第1学年40.4%にとどまった。また、学んだ知識を自分の生活に生かしていると回答している児童・生徒は、小学校第5学年で70.6%だが、中学校第1学年で50.0%、高等学校第1学年は46.4%、高等学校第3学年は47.2%と50%以下となっている。これは、本部会研究員所属校の保健室の実態からも同様の状況が推測された。

以上の点から、児童・生徒の保健に対する「価値」や「期待」が高い一方で「感情」や「日常生活における実践状況」がやや低いことが課題であり、児童・生徒の保健学習の意欲を高め、保健指導も加えながら日常生活と関連付けた実践的な指導方法の工夫が求められていると考えられる。

(2) 言語活動の充実

本研究では、保健学習で得た基礎的・基本的な知識を活用して、実践する力を育成するために、思考力・判断力・表現力の育成が重要だと考えた。その基盤となる言語活動を充実させるために「言語活動の充実に関する研究」を先行研究として、研究を進めた。先行研究では、授業のねらいの実現のために二つの言語活動を支える基盤と三

図2 言語活動のイメージ図



つの言語活動の要素が示されている(図 2)。教科の特性に応じた効果的な言語活動の位置付け方と、指導の工夫を行う上でのポイントを示した「言語活動を効果的に位置付けるための活用シート」(以下「言語活動シート」とする)が開発されている。しかし、小・中学校の 9 教科等については開発されているが、保健に特化したものはない。また、高等学校の言語活動シートはない。そのため、小学校の保健領域、中学校の保健分野の言語活動シートの内容や他教科の指導事例を参考に、指導案に言語活動を支える基盤と言語活動の要素を取り入れた。その際、先行研究でも明らかになっている「児童・生徒は自分の考えを表現することに難しさを感じている。」ことも考慮し、考えを表現する場面を取り入れるよう工夫した。

(3) 本研究における指導計画例

「けが」に関する

保健学習の体系

体育科(保健領域)第5学年 けがの防止 イ けがの手当

(目標) けがの防止について理

解できるようにし、健康で安全

な生活を営む資質や能力を育て

(内容)けがの防止について理解

するとともに、けがなどの簡単

な手当ができるようにする。け

がの簡単な手当は、速やかに行

保健体育科[保健分野]第2学年

(目標)個人生活における健康・

安全に関する理解を通して、生

涯を通じて自らの健康を適切に

管理し、改善していく資質や能

(内容)傷害の防止について理解

を深めることができるようにす

る。応急手当を適切に行うこと

ることができること。また、応

こと(包帯法、止血法など傷害

傷害の防止 エ 応急手当

う必要があること。

力を育てる。

本研究では、21世紀型能力を参考に、児童・生徒に体系化した保健学習で知識を習得させ、 日常生活での具体的な実践を重視する保健指導で活用を図り、後日、保健室などの日常場面 で実践させる。この一連の流れを明確にし、発達の段階に即した学習活動を繰り返し行うこ とで研究主題に迫ることができると考えた。

指導計画の横断化・体系化モデル 図 3

> 習得の場面(基礎力) =保健学習での 体系化

「身近な生活における健 康・安全に関する内容を実 践的に理解できるようにす る」

「けがの防止」

- ・状況の速やかな把握と処 置、近くの大人に知らせ ること。
- ・傷口を清潔にする、圧迫 して出血を止める、患部 を冷やすなどの方法

「個人生活における健康・ 安全に関する内容を科学的 に理解できるようにする」

「傷害の防止」

- ・応急手当による傷害の悪 化防止
- · 心肺蘇生等

※心肺蘇生法を取り上げ、 実習を通して理解できる ようにする。なお、必要 に応じて AED (自動体外式 除細動器) にも触れるよ うにする。

「個人生活及び社会生活に おける健康・安全に関する 内容を総合的に理解できる ようにする」

「現代社会と健康」

- ・応急手当の意義
- ・日常的な応急手当
- · 心肺蘇生法

※日常的な応急手当では体 位の確保・止血・固定な どの基本的な応急手当の 手順や方法があることを 実習を通して理解できる ようにする。心肺蘇生法 では AED の使用が必要で あることを理解できるよ うにする。その際、気道 確保、人工呼吸、胸骨圧 迫などの原理や方法につ いては、実習を通して理 解できるよう配慮する。

活用の場面(思考力) =特別活動における 保健指導での体系化

(矢印 黒:横断化、白:体系化)

言語活動:大人に伝える 保健学習との横断化: 身近なけがについて関心 をもつ。けがの状況を速 やかに把握し、的確に大 人に伝えることができ る。

学級活動

「けがの様子を正しく伝 えよう| 1単位時間

言語活動:生徒同士で伝 え合う

保健学習との横断化: RICE の効果を科学的に理 解し、実践しようとする ことができる。けがの状 態を把握し、RICE を素早 く行うことができる。

学級活動

「RICE の重要性を科学的 に理解しよう」 1単位時間(本時)

「RICE を意識し、実際の 応急手当をしよう」

1 単位時間

言語活動:学校全体(社 会)に伝える。 保健学習との横断化:

どのような場面において も率先して応急手当を行 おうとすることができ る。習得した知識を基に、 学校全体の健康を守ろう とすることができる。

生徒会活動 (保健委員会) 「応急手当の達人になろ

1回目30分(本時) 2回目30分

実践の場面 (実践力) =事後指導

- ○保健室 来室時の 個別保健 指導
- ○健康診断
- 発育測定
- ○保健室内 の環境の 工夫
- ○児童・生徒 保健委員 会指導
- ○保健だよ りなどで の啓発
- ○安全指導
- ○家庭や 地域との 連携
- ○他教科で の指導

○その他

によって、傷害の悪化を防止す 急手当には、心肺蘇生等がある

中

学

高

쑄

学

小

学

校

時の応急手当も取り扱い、実習 を行うものとする。)。 保健体育科 科目「保健」

(主に第1学年) 現代社会と健康 オ 応急手当 (目標)個人及び社会生活におけ る健康・安全について理解を深 めるようにし、生涯を通じて自

入学年次及びその次の年次

らの健康を適切に管理し、改善 していく資質や能力を育てる。 (内容) 適切な応急手当は、傷害 や疾病の悪化を軽減できるこ と。応急手当には、正しい手順 や方法があること。また、心肺 蘇生等の応急手当は、傷害や疾 病によって身体が時間の経過と ともに損なわれていく場合があ ることから、速やかに行う必要 があること(応急手当について は、実習を行うものとし、呼吸

器系及び循環器系の機能につい

ては必要に応じ関連付けて扱う

程度とする。)。

-6-

2 調査研究

(1) 調査の目的

保健教育に対する意識調査を行い、検証授業実施前後の保健教育に対しての変容を把握する。

(2) 調査の方法及び実施状況

ア 調査期間 平成27年9月~11月

イ 調査対象 都内公立学校(本部会研究員所属校)の児童・生徒

ウ 調査人数 小学校:第5学年 112名

中 学 校:第2学年 131名

高等学校:保健委員 56名 合計 299名

工 調査内容

(ア) 保健教育に対する意欲(感情、価値、期待)について

(イ) 保健教育の理解について

(ウ) 保健教育後の日常生活における実践状況について

なお、調査項目については、「保健学習推進委員会報告書」の「保健学習に関する調査」を参考にした。また、児童・生徒が分かりやすいように「保健の学習」の調査とし、保健の学習とは、保健の授業や養護教諭の行う保健指導を意味すると定義し実施した。

才 調査方法

質問紙法(選択式)による。

本部会研究員所属校に調査を依頼し、授業前と授業後の2回、調査を実施した。

カ 調査集計に当たっての留意点

集計する際、無回答の場合は無効回答とし、有効回答のみで分析を行った。

回答の構成比は小数第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも 100%にはならない。

(3) 調査結果

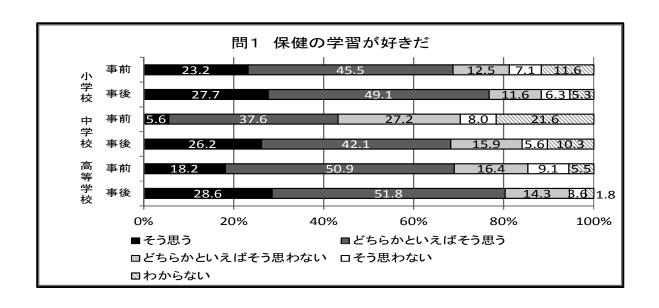
調査結果は特徴が見られた項目のみ記載している。全項目は参考資料(11頁)を参照。

ア 保健教育に対する意欲(感情、価値、期待)について

(7) 感情

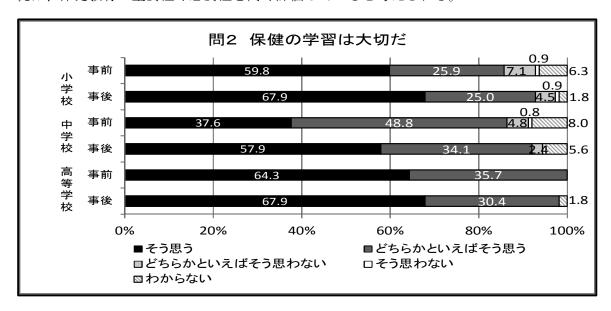
「問1 保健の学習が好きだ」について、事前調査において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が、小学校では 68.7%、高等学校では 69.1%と高く、中学校では 43.2% にとどまった。

しかし、事後調査では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が、小学校では 76.8%、高校では 80.4%と更に高くなり、特に中学校では 68.3%と事前調査に比べ 25.1 ポイント高くなった。「問7 保健の学習は楽しい」についても、事前と事後の調査を比べると、各校種ともに事後調査の方が肯定的な回答の割合が高くなった。このことは、今回の学習が児童・生徒にとって、保健教育への興味・関心をもつきっかけになったのではないかと考えられる。



(4) 価値

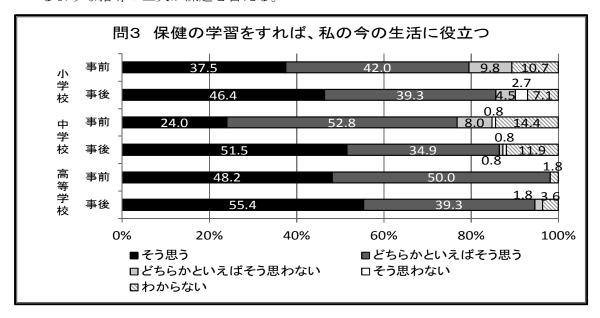
「問2 保健の学習は大切だ」について、事前調査において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が、小学校では85.7%、中学校では86.4%と高く、高等学校では100%という結果であった。事後調査においては、各校種で90%以上が肯定的な回答をし、児童・生徒は、保健教育の重要性や必要性を高く評価していると考えられる。



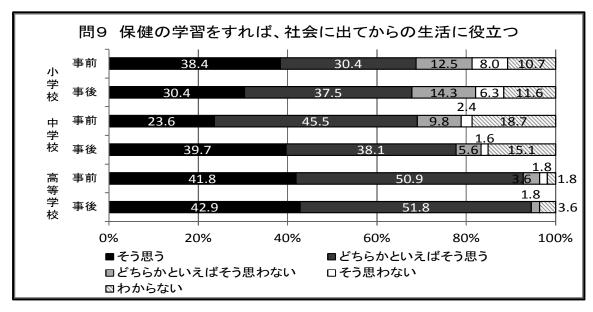
(ウ) 期待

「問3 保健の学習をすれば、私の今の生活に役立つ」について、事前調査において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が、小学校では79.5%、中学校では76.8%、高等学校では98.2%とほとんどの児童・生徒が生活に役立つという回答だった。事後調査では、小学校や中学校でも8割以上が肯定的な回答となった。しかし、「問6 心や体の不安や悩みを軽くしたり解決したりするのに役立つ」については、事前・事後調査ともに、小学校と中学校で6割程度であった。今回の学習が心に関するものではなかった

ことが一因として考えられるが、今後の学習において、心や体の不安や悩みを解決できるような指導の工夫が課題と言える。



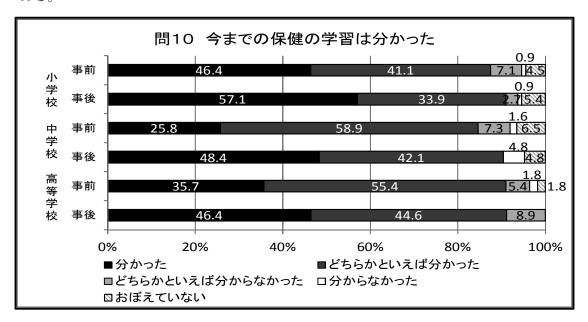
「問9 保健の学習をすれば、社会に出てからの生活に役立つ」では、事前・事後調査ともに、高等学校の肯定的な回答の割合が高い結果となった。高等学校では、健康に対して興味・関心をもつ保健委員の生徒のみを対象としたため、肯定的な結果が得られたと考えられるが、高等学校は卒業すると社会に出ていく生徒もおり、他校種と比べ、より社会を身近に感じていると考えられる。社会に出てからの生活に役立てていけるよう、発達の段階を踏まえ、系統性のある保健教育を実施していくことが大切である。



イ 保健教育の理解について

「問 10 今までの保健の学習は分かった」について、各校種ともに事前・事後調査では9割を示した。中学校においては、「分かった」が25.8%から48.4%と22.6 ポイント上昇した。学習の工夫や実際の学習場面に養護教諭が加わることで、理解がより深まった

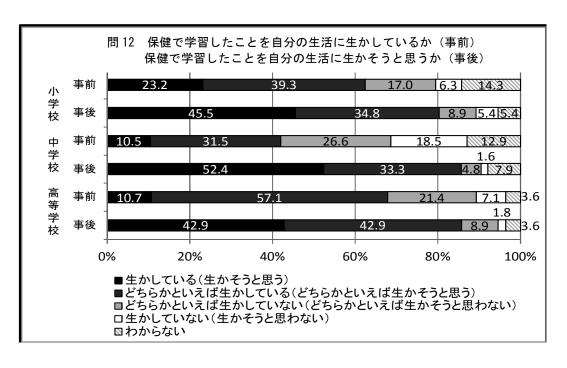
と考えられる。今後も、児童・生徒の興味・関心を引き出したり、思考を促したりするような指導方法の工夫、系統性を意識した学習内容の展開の工夫を行っていくことが大切である。



ウ 日常における実践状況について

事前調査の「問 12 保健で学習したことを自分の生活に生かしているか」においては、「生かしている」「どちらかといえば生かしている」が、小学校では 62.5%、高等学校では 67.8%と6割台にとどまり、中学校では 42.0%であった。

しかし、事後調査の「問 12 保健で学習したことを自分の生活に生かそうと思うか」においては、小学校では 80.3%、中学校では 85.7%、高等学校で 85.8%と各校種とも 8 割を超える結果となり、今回の学習が児童・生徒の実践意欲を高めたと考えられる。今後はさらに実践力につながっていくような指導の工夫が必要である。



≪参考資料≫ 児童・生徒対象 事前・事後調査集計結果一覧

感情 「の様々ないである。」 「は、おいでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	問7 問2 問8	(事後) (事前) (事後) (事前)	保健の学習が好きだ。 保健の学習が好きになりましたか。 保健の学習は楽しい。 保健の学習は楽しいと思いますか。 保健の学習は大切だ。 保健の学習は大切だと思いますか。 保健の学習は、健康な生活を送るために 重要だ。	小学校 中学校 高等学校 小学校 中学校 高等学校 小学校	事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事	232% 27.7% 56% 262% 182% 28.6% 29.7% 33.3% 8.9% 28.6% 14.3% 23.2% 59.8% 67.9%	45.5% 49.1% 37.6% 42.1% 50.9% 51.8% 41.4% 39.6% 45.2% 41.3% 53.6% 60.7% 25.9%	12.5% 11.6% 27.2% 15.9% 16.4% 14.3% 11.7% 9.9% 20.2% 11.1% 19.6% 10.7% 7.1%	7.1% 6.3% 8.0% 5.6% 9.1% 3.6% 6.3% 12.1% 8.7% 8.9% 0.9%	11.6% 5.3% 21.6% 10.3% 5.5% 1.8% 10.8% 4.5% 13.7% 10.3% 3.6% 1.8%
価値 保健教育 る意いて	問7	(事後) (事前) (事後) (事前)	保健の学習が好きになりましたか。 保健の学習は楽しい。 保健の学習は楽しいと思いますか。 保健の学習は大切だ。 保健の学習は大切だと思いますか。 保健の学習は、健康な生活を送るために	高等学校 小学校 中学校 高等学校 小学校 中学校	事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事	5.6% 26.2% 18.2% 28.6% 29.7% 33.3% 8.9% 28.6% 14.3% 23.2% 59.8%	37.6% 42.1% 50.9% 51.8% 41.4% 39.6% 45.2% 41.3% 53.6% 60.7% 25.9%	27.2% 15.9% 16.4% 14.3% 11.7% 9.9% 20.2% 11.1% 19.6%	8.0% 5.6% 9.1% 3.6% 6.3% 12.6% 12.1% 8.7% 8.9% 3.6%	21.6% 10.3% 5.5% 1.8% 10.8% 4.5% 13.7% 10.3% 3.6%
価値 保健教育 る 意 いて	問7	(事前) (事後) (事前) (事前)	保健の学習は楽しい。 保健の学習は楽しいと思いますか。 保健の学習は大切だ。 保健の学習は大切だと思いますか。 保健の学習は、健康な生活を送るために	高等学校 小学校 中学校 高等学校 小学校 中学校	事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事	18.2% 28.6% 29.7% 33.3% 8.9% 28.6% 14.3% 23.2%	50.9% 51.8% 41.4% 39.6% 45.2% 41.3% 53.6% 60.7% 25.9%	16.4% 14.3% 11.7% 9.9% 20.2% 11.1% 19.6% 10.7%	9.1% 3.6% 6.3% 12.6% 12.1% 8.7% 8.9% 3.6%	5.5% 1.8% 10.8% 4.5% 13.7% 10.3% 3.6%
価値 保健教育 る意いて	問2	(事後) (事前) (事前)	保健の学習は楽しいと思いますか。 保健の学習は大切だ。 保健の学習は大切だと思いますか。 保健の学習は、健康な生活を送るために	小学校 中学校 高等学校 小学校 中学校	事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事	29.7% 33.3% 8.9% 28.6% 14.3% 23.2% 59.8%	41.4% 39.6% 45.2% 41.3% 53.6% 60.7% 25.9%	11.7% 9.9% 20.2% 11.1% 19.6% 10.7%	6.3% 12.6% 12.1% 8.7% 8.9% 3.6%	10.8% 4.5% 13.7% 10.3% 3.6%
保健教育 に対する 意欲につ いて	問2	(事後) (事前) (事前)	保健の学習は楽しいと思いますか。 保健の学習は大切だ。 保健の学習は大切だと思いますか。 保健の学習は、健康な生活を送るために	中学校 高等学校 小学校 中学校	事 事 事 事 事 事 事 者 前 後 前 後 前 後 前 後 前 後	33.3% 8.9% 28.6% 14.3% 23.2% 59.8%	39.6% 45.2% 41.3% 53.6% 60.7% 25.9%	9.9% 20.2% 11.1% 19.6% 10.7%	12.6% 12.1% 8.7% 8.9% 3.6%	4.5% 13.7% 10.3% 3.6%
保健教育 に対する 意欲につ いて	問2	(事後) (事前) (事前)	保健の学習は楽しいと思いますか。 保健の学習は大切だ。 保健の学習は大切だと思いますか。 保健の学習は、健康な生活を送るために	高等学校 小学校 中学校	事後 事前 事後 事前 事後	28.6% 14.3% 23.2% 59.8%	41.3% 53.6% 60.7% 25.9%	11.1% 19.6% 10.7%	8.7% 8.9% 3.6%	10.3% 3.6%
保健教育 に対する 意欲につ いて	問5	(事前) (事後)	保健の学習は大切だ。 保健の学習は大切だと思いますか。 保健の学習は、健康な生活を送るために	小学校 中学校	事前 事後 事前 事後	14.3% 23.2% 59.8%	53.6% 60.7% 25.9%	19.6% 10.7%	8.9% 3.6%	3.6%
保健教育 に対する 意欲につ いて	問5	(事後)	保健の学習は大切だと思いますか。 保健の学習は、健康な生活を送るために	小学校 中学校	事前事後	59.8%	25.9%			1.8%
保健教育 に対する 意欲につ いて	問5	(事後)	保健の学習は大切だと思いますか。 保健の学習は、健康な生活を送るために	中学校		67.9%			0.070	6.3%
保健教育 に対する 意欲につ いて	問5	(事後)	保健の学習は大切だと思いますか。 保健の学習は、健康な生活を送るために		平川	37.6%	25.0% 48.8%	4.5% 4.8%	0.9% 0.8%	1.8% 8.0%
保健教育 に対する 意欲につ いて				高等学校	事後	57.9%	34.1%	2.4%	0.0%	5.6%
保健教育 に対する 意欲につ いて				1	事前事後	64.3% 67.9%	35.7% 30.4%	0.0% 0.0%	0.0% 0.0%	0.0%
保健教育 に対する 意欲につ いて				小学校	事前	54.5%	31.3%	8.0%	0.9%	5.4%
保健教育 に対する 意欲につ いて		(事後)	単女 に ○	中学校	事後事前	53.6% 32.8%	37.5% 46.4%	2.7% 8.8%	3.6% 1.6%	2.7% 10.4%
に対する 意欲につ いて	問8		保健の学習は、健康な生活を送るために		事後事前	52.4% 48.2%	30.2% 46.2%	5.6% 5.4%	1.6% 0.0%	10.3%
に対する 意欲につ いて	問8		重要だと思いますか。	高等学校	事後	57.1%	37.5%	3.5%	0.0%	1.8%
に対する 意欲につ いて	問8	(事前)	保健の学習は、学校での勉強において必要	小学校	事前事後	36.0% 37.5%	42.3% 40.2%	8.1% 8.9%	2.7% 4.5%	10.8%
NT		(pie /// \	だ。	中学校	事前事後	21.0% 37.3%	45.2% 38.1%	12.1% 11.9%	3.2% 1.6%	18.5%
			保健の学習は、学校での勉強において必要 だと思いますか。	高等学校	事前	35.6%	48.2%	7.2%	5.4%	3.6%
期待					事後事前	41.8% 37.5%	49.1% 42.0%	7.3% 9.8%	1.8% 0.0%	0.0% 10.7%
期待		(事前)	保健の学習をすれば、私の今の生活に役立	小学校	事後	46.4%	39.3%	4.5%	2.7%	7.1%
期待	問3	(事後)	つ。 保健の学習をすれば、私の今の生活に役立	中学校	事前事後	24.0% 51.5%	52.8% 34.9%	8.0% 0.8%	0.8% 0.8%	14.4% 11.9%
期待		(100)	つと思いますか。	高等学校	事前事後	48.2% 55.4%	50.0% 39.3%	0.0% 1.8%	0.0% 0.0%	1.8% 3.6%
期待		(=t=24)	117 feets on MATTE de 3-1-1 19 feets who de 11 to 19 19 men de 19	小学校	事前	56.8%	27.9%	5.4%	2.7%	7.2%
期待	nn .	(事前)	保健の学習をすれば、健康な生活ができる ようになる。		事後事前	54.1% 28.8%	32.4% 48.0%	2.7% 8.8%	3.6% 2.4%	7.2% 12.0%
期待	問4	(事後)	保健の学習をすれば、健康な生活ができる	中学校	事後	49.2%	34.9%	5.6%	0.8%	9.5%
期待			ようになると思いますか。	高等学校	事前事後	46.4% 41.1%	44.6% 51.7%	3.6% 3.6%	1.8% 1.8%	3.6% 1.8%
		(事前)	保健の学習をすれば、心や体の不安や悩み	小学校	事前	32.1%	33.0%	15.2%	7.1%	12.5%
1 1		(東後)	を軽くしたり解決したりするのに役立つ。 保健の学習をすれば、心や体の不安や悩み	.1. 27.14	事後事前	35.7% 9.7%	30.4% 37.1%	17.0% 34.2%	8.0% 8.9%	8.9% 20.2%
	問6	(事後)	保健の字音をすれば、心や体の不安や悩み を軽くしたり解決したりするのに役立つと	中学校	事後	27.8%	37.3%	10.3%	7.1%	17.5%
			思いますか。	高等学校	事前 事後	17.9% 19.6%	57.1% 66.1%	14.3% 10.7%	3.6% 1.8%	7.1% 1.8%
		(車益)	保健の学習をすれば、社会に出てからの	小学校	事前	38.4%	30.4%	12.5%	8.0%	10.7%
	BBO	(尹刑)	生活に役立つ。		事後事前	30.4% 23.6%	37.5% 45.5%	14.3% 9.8%	6.3% 2.4%	11.6% 18.7%
	問9	(事後)	保健の学習をすれば、社会に出てからの	中学校	事後	39.7% 41.8%	38.1% 50.9%	5.6% 3.6%	1.6% 1.8%	15.1% 1.8%
			生活に役立つと思いますか。	高等学校	事前事後	42.9%	51.8%	1.8%	0.0%	3.6%
保健教育		(事前)	今までの保健の学習は、分かった(理解で	小学校	事前事後	46.4% 57.1%	41.1% 33.9%	7.1% 2.7%	0.9% 0.9%	4.5% 5.4%
の理解に 理解	問10		きた)。	中学校	事前	25.8%	58.9%	7.3%	1.6%	6.5%
ついて	'	(事後)	今までの保健の学習は、分かりましたか (理解できましたか)。		事後事前	48.4% 35.7%	42.1% 55.4%	0.0% 5.4%	4.8% 1.8%	4.8% 1.8%
—		/ alg 24.\		高等学校	事後事前	46.4% 22.5%	44.6% 36.0%	8.9%	0.0% 16.2%	0.0% 9.0%
		(爭丽)	保健で学習したことから、自分の生活や身 の回りの環境について、振り返ったり考え	小学校	事制事後	22.5% 25.0%	36.0% 41.1%	16.2% 17.9%	8.9%	7.1%
	問11		たりしているか。	由 丛 桥	事前	8.9%	35.5%	26.6%	19.4%	9.7%
	lb] T T	(事後)	保健で学習したことから、自分の生活や身	中学校	事後	26.4%	44.0%	12.0%	8.8%	8.8%
保健教育			の回りの環境について、振り返ったり考え たりしようと思いますか。	高等学校	事前事後	10.7%	41.1%	35.7% 10.7%	10.7% 3.6%	1.8%
体健教育 後の日常				小冶林	事前	21.4% 23.2%	60.7% 39.3%	17.0%	3.6% 6.3%	14.3%
生活にお宝珠	ne ·	(事前)	保健で学習したことを、自分の生活に生か しているか。	小学校	事後事前	45.5% 10.5%	34.8% 31.5%	8.9% 26.6%	5.4% 18.5%	5.4% 12.9%
りる夫歧	問12	(事後)	保健で学習したことを、自分の生活に生か	中学校	事後	52.4%	33.3%	4.8%	1.6%	7.9%
状況につ いて	L		そうと思いますか。	高等学校	事前事後	10.7% 42.9%	57.1% 42.9%	21.4% 8.9%	7.1% 1.8%	3.6% 3.6%
		(事前)	テレビや新聞、インターネットなどで健康	小学校	事前	17.0%	24.1%	22.3%	30.4%	6.3%
	nn		に関する情報を見たり調べたりしているか。		事後事前	16.1% 9.7%	30.4% 20.2%	17.0% 33.1%	27.7% 33.9%	8.9% 3.2%
	問13		これから、テレビや新聞、インターネット などで健康に関する情報を見たり調べたり	中学校	事後	20.6%	35.7%	14.3%	14.3%	15.1%
			しようと思いますか。	高等学校	事前	8.9%	35.7%	30.4%	23.2%	1.8%

3 実践研究

- (1) 小学校 第5学年 特別活動 学級活動
- ア 題材名 「けがの様子を正しく伝えよう」

学級活動(2)カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

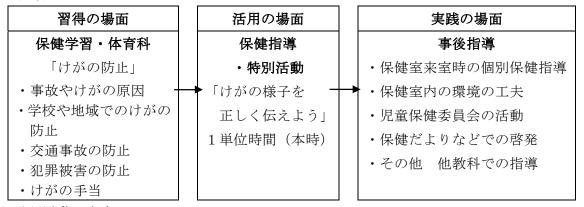
イ 題材の目標

身近なけがについて関心をもち、けがの状況を速やかに把握し、的確に大人に伝えることができる。

ウ 題材の評価規準

ア 集団活動や生活への	イ 集団の一員としての	ウ 集団活動や生活に
関心・意欲・態度	思考・判断・実践	ついての知識・理解
けがについて関心をもち、	けがの様子を的確に伝え	けがの様子を的確に伝え
自主的に日常の生活を振り	る方法について話し合い、考	る方法について理解してい
返り、活動に取り組もうとし	え、判断し、実践している。	る。
ている。		

工 指導計画



オ 言語活動の充実

(ア) 言語活動を支える基盤

【基盤】基本的事項の理解

- ・ けがをしたときには、けがの悪化を防ぐ対処として、けがの状況を速やかに把握 して処置すること、近くの大人に知らせることが大切であることを理解する。
- ・ けがの状況を正しく伝えるためには、「いつ・どこで・だれが・どこを・どうした」 という情報が大切であることを理解する。

【基盤】学習情報の獲得

- ロールプレイングによる実践的・体験的な活動から、必要な情報を得る。
- (イ) 言語活動としての要素

【要素Ⅰ】自己の思考

・ 日常の生活や保健学習を振り返り、的確な情報収集(けがの症状を聞く)の仕方 を考え、自分の意見をもつ。

【要素Ⅱ】伝え合い

・ グループ活動や話合い活動を通し、自分の考えや思いを伝え合ったり課題解決の 方法を出し合ったりする。

【要素Ⅲ】思考のまとめ

活動を通して今後どのように生活に生かしていきたいか、具体的なめあてを考え、 ワークシートに書く。

カ 本時

(ア) 本時のねらい

身近なけがについて関心をもち、けがの状況を速やかに把握し、的確に大人に伝えるこ

	とができる。	
(1)本時の展開	
時 間	児童の活動	◇指導上の留意点 ◆評価規準≪観点≫(評価方法)
	1 保健学習の内容を振り返り、本時の内容とめあてを知る。	
	けがの様子を	を正しく伝えよう
導入(3分)	【要素 I】自己の思考 2 けが人を発見した際に、普段どのように大人に伝えているのかを考え、発表する。	【基盤】 基本的事項の理解 ◇日常の生活や保健学習を振り返えらせ、自分の考えをもたせる。(T1) ◆けがについて関心をもち、自主的に日常の生活を振り返り、活動に取り組もうとしている。 《関心・意欲・態度》(発言) ※間の工夫 身近な問題を具体的に答えられる発問をする。「友達が校庭で転んで足をけがしたとき、先生に何と言って伝えていますか。」
	3 ロールプレイングのやり方を知る。	「



開

37 分

【要素Ⅱ】伝え合い

- 4 グループ活動を行う。(1回目)
 - ロールプレイングを行う。
 - ・けがの状況の正解を知る。

場面:昼休み 落五小での校庭での出来事です

あなたは 1年1組 まなぶさん です。 昼休み、校庭で鬼ごっこをして遊んでいました。 鬼が追いかけてきたので、にげていたら転んで しまいました。右ひじから血が出て、痛いです。 また、右足首もひねってしまいました。 とても痛くて歩けません。

〉活動方法を黒板に掲示し、例題を担任と児童 の代表で行い、やり方を説明する。(T1) ◇ルールを押さえ徹底させる。

- ・制限時間 1分・けが人は、質問以外に答えない。
- ・大人役は聞き返してもよい。
- ◇役割ごとに指示をする。(T1・T2)

【基盤】 学習情報の獲得

- ◇各グループを回り、役ごとに必要だと思った 情報を考えさせる。(T1, T2)
- ◆けがの様子を的確に伝える方法について話し 合い、考え、判断し、実践している。《思考・ 判断・実践》(発言)

シナリオの工夫

- ・身近なけがである、擦過傷と捻挫を組み 合わせることで、正しく聞き出さないと 正解が出ないようにした。
- ・時間制限を設定することで、焦らずに要 点を聞き出す難しさを体験させた。

グループでどのような情報が必要だ ったかを話し合い、ワークシートにま とめる。

·学年、名前 けがをしたところ ・けがの内容(血が出てつなど)

6 グループ活動を行う。(2回目)

<2 四目>

開

 $\widehat{37}$

分



あなたは 2年1組 花子さん です。

今日は友達と落合公園で遊ぶ約束をしました。

友達を待っている間、鉄棒をして遊んでいたら、手を放

してしまい、地面に落ちてしまいました。

左足首をひねり、はれています。痛くて歩けません。

また、頭を打っており、頭も少し痛いです。

養護教諭からけがの適切な伝え方に ついての話を聞く。



けがの状況を正しく伝えるためには、 「いつ・どこで・だれが・どこを・どうし た」という情報が大切であることが分か る。

活動の展開の工夫

1回目終了後、必要な情報を教師から 教えるのではなく、グループの話合い活 動により児童の思考を深めさせ、2回目 の活動につなげた。

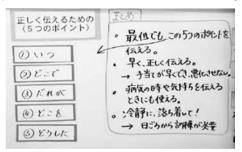


小道具の工夫

腫れている様子を表すために、靴下に 綿を詰めている。

【基盤】 基本的事項の理解

◇けがや病気など、情報を正しく判断し伝える ことで、早く手当をすることができ、症状の 悪化を防ぐことができることを押さえる。



【要素Ⅲ】思考のまとめ

今後の生活にどのように生かしてい くか、ワークシートに記入する。

末 5 分

けがの様子を正しく伝えよう							
<ふりかえろう>	中日の学習を4リかえり、おなたはこれからどのように生活していきますか。 具体的に乗さましょう・ビ	ļ					
*							
+							
*							

- ◆けがの様子を的確に伝える方法について理解 している。《知識・理解》(ワークシート)
- ◆けがの様子を的確に伝える方法について話し 合い、考え、判断し、実践している。《思考・ 判断・実践》(ワークシート)

ふり返りのポイント 1学習したこと ~だとわかった。 ~についてはじめて知った。

2目標を決める これから○○の時には、△△したい。 今度○○したら、△△する。

3目標達成のため の作戦 そのために (エ夫を) ○○します。 でも○○しそうなので、△△します。

振り返りの工夫

- 振り返りのポイント を押さえる。
- ・振り返りの時間を十 分に確保する。
- ワークシートを工夫

児童の振り返り ワークシートからの抜粋

- ★けがの様子を正しく伝えるには、いつ・どこで・だれが・どこを・どうしたで相手に 伝えることができると知った。これから自分がけがをしたり、けがをしたところを見 たりしたら、この5つのポイントを発見者や大人に伝えたいと思った。そのためには、 あわてずにきちんと伝えることが大切だと思ったけれど、もし出血量が多い時などは あわててしまうと思ったので、常に冷静になりたいです。
- ★今日やった活動では、あまり上手に伝えられなかったけれど、これから友達がけがを したら、落ち着いて早く、正しく伝えたいと思った。そのために、けがをした友達に しっかり聞いて、聞いた内容を忘れないように工夫したい。
- ★発見者の聞き方によって、けが人の状況などが違うことが分かった。今日習った5つのポイントを使ってけが人の状態などをあせらず正確に聞き、大人に伝えていきたい。

キ 検証授業を終えて

保健室に来室した際には、自分の言葉で具体的にけがの状況を伝えたり、けがをした低 学年の児童の代わりに説明したりする様子が見られるようになった。

- (2) 中学校 第2学年 特別活動 学級活動
- ア 題材名 「応急手当 RICE の重要性を科学的に理解し、実践しよう」 学級活動(2)キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

イ 題材の目標

- (7) 炎症のメカニズムを理解し、なぜ RICE が必要なのかを考え、実践しようとすることができる。(本時/1時間目)
- (4) けがの状態を把握し、RICE を素早く適切に行うことができる。(2時間目)

ウ 題材の評価規準

ア 集団活動や生活への	イ 集団や社会の一員とし	ウ 集団活動や生活に
関心・意欲・態度	ての思考・判断・実践	ついての知識・理解
炎症のメカニズムや RICE	炎症のメカニズムを理解	炎症のメカニズムや RICE
について関心をもち、意欲	し、なぜ RICE が必要なのか	の重要性と方法について理
的に活動に取り組もうとし	を考え、実践することがで	解している。
ている。	きる。	

工 指導計画

習得の場面 活用の場面 実践の場面 保健学習•保健体育科 保健指導・特別活動 事後指導 「RICE の重要性を科学的に理 「傷害の防止」 ▶・保健室来室時の個別指導 ・傷害の発生要因 解しよう」1単位時間(本時) ・保健室内の環境の工夫 応急手当の意義 「RICE を意識し、実際の応急手 ・生徒保健委員会の指導 と方法 当をしよう」1単位時間 ・保健だよりなどでの啓発 ・その他 他教科での指導

RICE 手当は「R \to I \to C \to E」の順で優先する。Rest(安静にする)、Ice(冷やす)、Compression(圧迫・固定する)、Elevation(高く上げる)の英語の頭文字をつなげたもの。 (出典 赤十字救急法講習教本 日本赤十字社 平成 23 年 6 月)

オ 言語活動の充実

(ア) 言語活動を支える基盤

【基盤】基本的事項の理解

- ・ 応急手当の意義、基本的な応急手当の方法を理解している。
- 血液の働きを理解している。

【基盤】学習情報の獲得

- 実際のけがの場面において応急手当をしていたかを振り返る。
- ・ 血液の役割と応急手当には深い関係性があることを知る。
- ・ グループワークを通じ、適切な応急手当をすることでけがを早く治すことができる ことを知り、実践しようとする。

(イ) 言語活動としての要素

【要素 I 】自己の思考

・ 前時の内容を振り返り、応急手当に対する自分の考えをもつ。

【要素Ⅱ】伝え合い

・ なぜその手当が必要なのかをグループ活動や全体発表を通し、自分の考えや思い を伝え合うことで、様々な意見があることを知り、自己の思考を深める。

【要素Ⅲ】思考のまとめ

・ 今後、実際の場面でどのように生かしていきたいか、ワークシートに書く。

力 本時

(ア) 本時のねらい

炎症のメカニズムを理解し、なぜ RICE が必要なのかを考え、実践しようとすることができる。

(イ) 本時の展開

時間	生徒の活動	◇指導上の留意点 ◆評価規準《観点》(評価方法)
 導 入	1 既習事項を振り返り、本時の 活動内容と目標を確認する。	▼計画焼牛 (競点// (計画力法) を科学的に理解しよう
入 (5分)	【要素 I 】自己の思考 ・「RICE」の意味・受傷箇所の 状態・炎症の特徴などをワークシートに記入し、確認する。	【基盤】基本的事項の理解 ◇保健学習で学んだ「RICE」の意味を確認させる。 ・つき指や捻挫、打撲したとき、受傷箇所がどうなる か生徒に考えさせ発言させる。(T1) ・生徒の発言を基に、炎症の特徴を確認させる。
展開 (35分)	2 「RICE」と炎症の関係について、(プレゼンテーションソフトによる教材を見て)確認する。	【基盤】学習情報の獲得 ◇プレゼンテーションソフトによる自作教材で、RICE と炎症の関係について説明する。(T2) ・受傷箇所では、「痛み」「発赤」「熱感」「腫れ」の症状(炎症)が起こっていることを伝える。

・受傷時の血液成分の働きや自然治癒、炎症の仕組みの説明を、プレゼンテーションソフトによる自作教材を見ながら聞く。

【要素Ⅱ】伝え合い

- 3 なぜ「RICE」が大切なのかを、 グループで話し合う。
 - ・説明された炎症の仕組みを 踏まえつつ、配布された道具 を用いて考える。
 - グループで意見をまとめる。



【要素Ⅱ】伝え合い

【要素Ⅲ】思考のまとめ

- 4 それぞれのグループでまと めた意見を発表する。
 - ・他の班の発表を聞きながら、 ワークシートにメモを取る。
- 5 本時のまとめの説明を聞き、 内容を振り返る。

◇炎症の症状の原因は 血管拡張・血流増加・ 血管浸透圧亢進などで あり、炎症は回復の リレーの妨げになる ことを分かりやすく 説明する。(T2)



【基盤】学習情報の獲得

- ◇グループワークの方法を説明する。(T2)
- ◇机間巡視をし、グループでの話し合いを促す。話し合いが進まないグループの支援。(T1・T2)
- ◆「RICE」の重要性について、配布された道具を使い ながら、活動に取り組もうとしている。
 - 《関心・意欲・態度》(発表原稿)
- ◆班の中で意見を伝え合い、積極的に話し合うことで 考えが深まっている。《思考・判断・実践》(ワーク シート・発表原稿)
- ◇生徒一人一人の声や発表内容を受けて、再度生徒へ 投げかけ、考えを深めさせる。(T1・T2)
- ◇プレゼンテーションソフトによる自作教材を使用 し、本時のまとめを行う。(T2)



終末 (10分)

【要素Ⅲ】思考のまとめ

6 学んだ「RICE」を、実際の生活でどのように生かしていくか考え、ワークシートに記入する。

- ◆「RICE」の重要性について、科学的に理解している。 《知識・理解》(ワークシート)
- ◆本時で学んだ知識を生かして実践しようと考えている。《思考・判断・実践》(ワークシート)

(ウ) 板書





(エ) 資料

指令書

君たちの班には、つき指やねんざ、ぶつけたときに、

なぜ、安静にすることが必要なのかを考える ミッションを与える。 (ネット包帯は、けがをした部分の筋や腱などを想像してみよう)

- ! この活動を進めるには、以下の約束がある。
- ★制限時間は 5分! 考えは、いくつ書いてもよい。
- ★できるだけ太くて大きな文字で書く。
- ★発表のときは、中に入っているグッズを使って説明する。(発表時間は30秒)
- ★発表は基本、班長が行う。副班長はメモ権、発表用紙に意見をまとめて書く。 しかしどうしても無理な場合は話し合いで決める。
- ★ワークシートの④ 研の考え の欄は、各自で記入する。

では、班昌全員で意見を出し、力をあわせて、このミッションをクリアしよう!!

各班に配布した 「RICE 」の道具



○左上:「安静」班

(ネ<u>ット包帯</u>に切り込 みを入れ、けがした 腱に見立てた

○右上:「冷却」班

(<u>保冷剤</u>で患部を冷や すというヒント)

○左下:「圧迫」班

(100円均一ショッ プで購入したカーラ ーのスポンジ部分を 血管に見立てた

○右下:「挙上」班

(血管に見立てた<u>試験</u> <u>管</u>に、血液に見立て た<u>ビーズ</u>を入れ、「×」 シールで患部を示し た)

キ 2時間目の活動内容

与えられた場面設定で手当の方法を考え、発表し、班同士で相互評価をする

- 1. 炎症を抑える RICE 処置の復習
- 2. ケースワーク
 - ①グループワーク
 - ・運動会の救護係として、一人一役でRICEを担当する。(場面設定)・救護席にある救急箱の中身を利用して、自分の担当処置を考える。・班長が調整役となり、RICEをそろえて処置を完成させる。・自分の担当処置で、工夫した点を発表する。・ペア班で互いを評価し、自分の考えを深める。・・ペア・サークに取り組む。
 - ②ペアワーク
 - ・相互評価して得た意見を踏まえ、一人で RICE を行う。
 - ・交代して RICE を行う。
- 3. ケースワークの感想を発表する。

ク 検証授業を終えて

- プレゼンテーションソフトによる自作教材は、炎症のメカニズムを説明するに当たり、 興味・関心を引き出すことや理解させることに効果的であった。
- ティーム・ティーチングで指導することで、複数の教師で生徒を見ることができたり、 生徒の状況を把握したりできた。また、展開にメリハリができた。

生徒のアンケート

☆考えることが楽しかった。体ってすごいなと思った。

☆難しかったけれど、おもしろかった。

☆白血球が掃除することを初めて知った。

☆かぜやインフルエンザの時と同じで、症状は傷病を治しているサインだということが分か った。

☆今まで RICE を言われるままにやっていたけれど授業で RICE をやる意味が分かった。 これからはやっていきたい。

☆今までは少しくらいがまんして放っておいたけれど、それが治りを遅くしていることが分 かったから、次からはちゃんとやろうと思った。

☆違う考えもあって、「あぁ、そうなのか」と思った。

その後の様子

- ★部活動で、授業を受けた2年生が1年生に教えていた。実践の様子が見られた。自分なり の手当を見せに来た。
- ★各教科の教員から「以後の単元につながるので、良い(保健体育科:感染症)」「自分の担当する授業内容が他教科とつながっていて、自分の授業内容にも膨らみが増すということを再確認できた(理科)」という意見があった。
- ★授業後、「圧迫は、けがした所を押したら更に痛いから、必要ない」と言って、生徒が保 健室へ来た。改めて、圧迫の効果や具体例を話すと、最後には「だから必要なのか。分か った!」と言って、教室へ戻った。圧迫の必要性を理解できた様子だった。
- (3) 高等学校 特別活動 生徒会活動
 - ア 題材名「応急手当の達人になろう」
 - イ 題材の目標
 - ・ 応急手当を行う際に、素早く判断し身の回りにある物を利用して手当てを実践すること ができる。(本時/1回目)
 - ・ 保健委員として習得した知識を基に、各学級への伝達を通して、学校全体の健康を守ろ うとすることができる。(2回目)
 - ウ 題材の評価規準

ア 集団活動や生活への	イ 集団や社会の一員として	ウ 集団活動や生活に
関心・意欲・態度	の思考・判断・実践	ついての知識・理解
応急手当について関心を	生徒会の一員としての保健	集団生活の充実と向
もち、他の生徒と協力して、	委員の役割意識をもち、応急	上のために応急手当に
自主的、自律的に委員会活動	手当を個人及び社会生活で生	ついて理解し、保健委
に取り組もうとしている。	かすことについて考え、判断	員の役割について理解
	し、協同して実践している。	している。

工 指導計画

習得の場面 活用の場面 実践の場面 保健学習・保健体育科 保健指導 · 特別活動 事後指導 「応急手当の達人になろう」 中学校 ▶・保健室来室時の個別 「傷害の防止」 1回目 30分(本時) 指導 ・傷害の発生要因 2回目 30分 ・保健室内の環境の工夫 ・応急手当の意義と方法 保健だよりなどでの 高等学校 啓発 「現代社会と健康」 生徒保健委員会の指導 ・応急手当の意義 その他 ・日常的な応急手当 他教科での指導 • 心肺蘇生法

オ 言語活動の充実

(ア) 言語活動を支える基盤

【基盤】基本的事項の理解

- ・ 応急手当を適切に行うことによって傷害の悪化を防止することができることを理解している。
- ・ 基礎的な応急手当の方法を理解している。

【基盤】学習情報の獲得

- ・ 今までの体験(部活動や体育等)からけがの場面を振り返る。
- ・ 身近な物品を利用して、素早く判断し積極的に応急手当を行うことができる。
- (イ) 言語活動としての要素

【要素 I 】自己の思考

- ・ 日常の生活を振り返り、応急手当の応用方法を考え、自分の意見をもつ。
- ・ 学校全体に発信するためには何が大切かを考え、自分の意見をもつ。

【要素Ⅱ】伝え合い

・ 自分の考えた方法をグループや全体で伝え合うことにより、様々な解決方法を知る。

【要素Ⅲ】思考のまとめ

- ・ 活動を通して気付いたことや考えたことを全体に発表し、ワークシートに書く。
- ・ 学校全体に発信する。

カ 本時

(ア) 本時の目標

応急手当を行う際に、素早く判断し身の周りにある物を利用して手当てを実践する ことができる。

(イ) 本時の展開

時間	生徒の活動	◇指導上の留意点 ◆評価規準《観点》(評価方法)
導入(1 本時の内容と目標の確認をする。	
(5 分)	2 保健学習の内容を振り返る。	【基盤】基本的事項の理解 ◇応急手当の意義を確認させる。
		◇活動方法を説明する。
	【要素Ⅰ】自己の思考	【基盤】学習情報の獲得
显	【要素Ⅱ】伝え合い	◆積極的に取り組み、他の人と協働して話し合おう
展開	4 ケースワークを行う。	としている。《関心・意欲・態度》(行動・発言・
$\widehat{20}$	・設定した場面で、一人が傷病者	ケースワーク)
分	役となり、応急手当の方法を、	教科書で固定し、
	全員で考え、実践する。(記録	ネクタイを三角巾
	1名)	代わりにして腕を
		吊っている生徒

5 グループごとに行った応急手 当を発表し、工夫した点や使用し た物品を紹介する。



| | 折り畳み傘とハンカチを使用して | | | 固定を行った班の発表 |

・本時で学んだ内容を踏まえた保 健だよりを作成するに当たり、 伝えたいことは何かをグルー プで話し合う。 ◇生徒の発表内容から、手当のポイントをまとめ、 説明する。

◆ポイントを押さえて固定できている。 《知識・理解》(発表内容)

◇プレゼンテーション ソフトで作成した 自作教材を使用し、 説明する。



「東京防災」の内容も紹介

- ◆班の中で意見を伝え合い、積極的に話し合うことで、考えが深まっている。《思考・判断・実践》 (グループワーク・ワークシート2・発表)
- 【要素Ⅲ】思考のまとめ
- 6 本時の内容をまとめる。
- ◇本時の内容についてまとめる。
- ◇次回の話し合いに向けて調べ学習を行うよう促す。

(ウ) 資料

展

開

 $\widehat{20}$

分

末

5

分

ワークシート1



ワークシート2



生徒の感想より抜粋

- ★3~4人の班それぞれで考えて応急処置をして、自分たちの班以外の班(特に2年生)の意 見がとても参考になりました。
- ★今日のような体験をできることなら保健委員だけでなく、みんなが体験できるといいと思う。
- ★実際にやってみて本当に身近なものでなんとかなると分かり、これからの生活に活かしていきたい。

キ 2回目の学習内容

保健だより

19 (日の飲養業者) (*10~人だ) 19 (日の飲養業者) (2 年後の保養業務が参加し、必要税額に (学びなした。 基準の限りの性だきった必要相談で 4 人 1 グループでそれぞれ でいるから発生が事者の責折の必要を重要しました。 うりや教育器、ネクタイ、ブレザーをどかんな持っているのから 「ドルケッチリー、対立てのように変わり強 すてしたグループもありました。

保健講習会やりました!

ごの前も創意工夫しながら楽しそうに行って いました。"ハンカチや何か冷やすものがあ らと便呼ばね"という声が多く聞こえてきまし

前回と同じ4人グループの班になり、保健だより作成に当たって調べてきた内容を班の中でまとめる。また、その内容を班ごとに発表し、他の班の意見を取り入れて考えを深める。それぞれの班で最終的に保健だよりを通じて全校の生徒に何を伝えたいかワークシートに記入し、それを貼り付けて1枚の保健だよりを作成する。作成した保健だよりは、各クラスで保健委員が知識や実践のポイントを話しながら配布し、内容を全校に広めていく。

生徒が作成した保健だより(表)

どのような知道をしますか?

講習会で行った問題

N.た応急手当でを行ってみてください! とっさのときに役立ちます☆

校進中、灰人4人で歩いて

保健委員会



ク 検証授業を終えて

- ・ケースワークを取り入れたことにより、保健学習で習得した知識をより深めることができた。また、ケースワークの際、指導者が声掛け及び助言を行い、全ての生徒が活動に取り組めるように配慮した。
- ・ワークシートを活用してグループの意見をまとめることにより、思考が深まり有意義な 発表を行うことができた。

Ⅷ 研究のまとめ

1 研究の成果

本研究では、研究主題を「自らの力で社会を生き抜いていく児童・生徒の育成」とし、思考力・判断力・表現力を高める保健教育を目指した。調査研究においては検証授業の前後で児童・生徒の意識調査を実施し、効果を検証した。また、習得した知識を自分の生活に当てはめて考え、実践する力を高めるための手段として言語活動の充実を取り入れた。けがに関して保健学習と保健指導の関連性の強化を図り、保健教育の横断化と児童・生徒の発達の段階の特性及び校種間の体系化にも視点を置き、研究を進めてきた。

(1) 調査研究を通して

事前の意識調査で保健教育が大切だと思っている児童・生徒の多くは、学習したことを 自分の生活に生かしていると答えている。習得した知識を活用し、より児童・生徒の理解 が深まる活動を意識した実践的な授業の工夫や、言語活動の充実を図るなどの手だてが必 要である。検証授業後の事後の意識調査では、全ての項目でおおむね上昇しており、学習の理解が深まったという項目については約2倍の数値に上がった校種もある。養護教諭が加わることで理解がより深まったことが分かった。

(2) 言語活動の充実

授業等の中で言語活動としての要素である「自己の思考」「伝え合い」「思考のまとめ」を位置付けることで、児童・生徒の授業中の思考の流れが明確になり、主体的、意欲的に取り組ませることができた。小学校は実践的に、中学校では科学的に、高等学校では総合的にと発達の段階を意識して実践したことで、思考力・判断力・表現力を高める手だてとして言語活動は、有効であった。

グループによる話合い活動では、他者に意見を伝えるという作業を通して、効果的に自己の思考を深め、実践につながる力を育成することができた。

体験活動や話合い活動では、教師の意図的な班分けやシナリオ、教材、ワークシートの 工夫をすることで、より活発なものにし、思考力を高めることができた。

中学校では、グループワークにおいて話合いの条件を「指令書」「道具(RICE の効果を考えるヒント)」として生徒に提示したことで、生徒同士の思考を深め、互いの意見を伝え合う活動を展開できた。ワークシートの工夫として、自分の考え・班のメンバーの考え・他の班の考えを記述することで、それぞれの意見を整理し、自分の思考を深めることにつなげられた。

高等学校のケースワークでは、指導者が声掛け及び助言を行い、全ての生徒が活動に取り組めるように配慮した。2回目の活動では、1回目の活動で深めた自分の考えを、全校生徒に伝えるという視点で保健だよりを作成した。それを用いて各クラスで発表することで、自分の考えを発表し、目的をもって他者へ考えを伝えるという思考のまとめとなり、言語活動の充実となった。

自分の考えを表現する場面は、各校種ともにグループによる話合い、発表、ワークシートへのまとめで行ったが、学んだことを自分の言葉で重要なポイントに絞って表現することができていた。また、ワークシートのコメントからも、自分がけがの場面に遭遇したときのことを想定して、今後どのように行動したいか、そのために今回学んだ内容から自分にとって大切だと思った部分を表現していた。その後の日常生活の中でも、実行に移している様子が見られた。

(3) 保健学習と保健指導を関連付けた指導(横断化)

保健学習で学んだけがの知識を、保健指導を通して繰り返し学習することで知識、理解 を深めることができた。

小学校では、けがの状況を速やかに把握し近くの大人に知らせるための方法を身近な場面に設定したことで、実践的に身に付けることができた。

高等学校では、保健学習で習得した RICE を、実際に身の回りにある物や生徒自身が持っている物を使った応急手当のケースワークを行うことで、より実践的に学ばせることができた。

中学校では、保健体育科の他に理科など各教科において学んだ知識(けがの手当に効果

的な RICE の具体的な方法・白血球や血小板など血液の働き等)を活用し、身近な生活や自分の体に当てはめて考えることで、より横断的な学習を実践できた。

(4) 各校種を通じた保健指導の体系化(系統性)

小・中・高等学校の発達の段階に合わせた教材や指導の範囲を明確にすることで、授業等のねらいが焦点化された。ワークシートの児童・生徒のコメントからも、授業内容を実践的・科学的・総合的に捉えたコメントが見られ、児童・生徒の行動変容をより促すことができたと考えられる。小学校では「大人に伝える」、中学校では「生徒同士で伝え合う」、高等学校では「学校全体(社会)に伝える」という、言語活動の体系化にもつながった。

2 今後の課題

(1) 年間指導計画への位置付け

地域や学校の特性も考慮して、横断化・体系化した保健教育を年間指導計画に位置付け、学校の教育活動全体を通して、全教職員の理解と協力のもと計画的に行う必要がある。

(2) けが以外の単元

全ての単元の内容においても横断化・体系化し、思考力、判断力、表現力を高めるため に言語活動を取り入れた指導が望まれる。

(3) 事後指導の継続

児童・生徒が検証授業で学んだことを日常生活の中で実践するためには、家庭との連携を図りながら、学校行事・朝の会・SHR・給食指導・清掃指導・部活動・保健室での個別指導等、あらゆる場面で継続して事後指導を行うことが必要である。習得した知識を活用し、実践を積み重ねていくことで、自らの力で社会を生き抜いていく力を育成できると考える。

【参考・引用文献】 □「小学校、中学校、高等学校」学習指導要領解説 総則編、体育編、保健体育編、 特別活動編 □「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善に (中央教育審議会 平成20年1月) ついて (答申)」 □「『生きる力』を育む小学校保健教育の手引き」 (文部科学省 平成25年3月) (文部科学省 平成26年3月) □「『生きる力』を育む中学校保健教育の手引き」 □「平成 22 年度保健学習推進委員会報告書―第 2 回全国調査の結果―」 (公益財団法人日本学校保健会 平成24年2月23日) □「学校保健の課題とその対応―養護教諭の職務等に関する調査結果から―」 (公益財団法人日本学校保健会 平成24年3月26日) □「言語活動の充実に関する研究」 (平成22年度東京都教職員研修センター紀要第10号 平成23年3月) □「言語活動の充実に関する研究(2年次)」 (平成23年度東京都教職員研修センター紀要第11号 平成24年3月) □「教育課程の編成に関する基礎的研究 報告書5 社会の変化に対応する資質や能力 を育成する教育課程編成の基本原理」 (国立教育政策研究所 平成 25 年 3 月)

平成27年度 教育研究員名簿

小・中・高 合 同 ・ 学 校 保 健

地区	学校名	職名	氏 名
新宿区	新宿区立落合第五小学校	主任養護教諭	宮崎 亜希絵
文京区	文京区立礫川小学校	主任養護教諭	氏原 亜希子
中野区	中野区立上高田小学校	養 護 教 諭	○印宮 ゆき絵
葛飾区	葛飾区立上千葉小学校	主任養護教諭	岩﨑 敬子
青梅市	青梅市立第一小学校	主任養護教諭	古賀 玲子
台東区	台東区立駒形中学校	養護教諭	加藤 明日美
墨田区	墨田区立桜堤中学校	主任養護教諭	○硯川 美佐子
練馬区	練馬区立田柄中学校	主幹教諭	葛木 有紀
調布市	調布市立第八中学校	主幹教諭	毛利 亜紀
東部所	東京都立六本木高等学校	主任養護教諭	梅原 久美
中部所	東京都立豊多摩高等学校	主任養護教諭	◎樋口 真美
西部支所	東京都立多摩科学技術高等学校	養 護 教 諭	熱田 藍

◎ 世話人 ○ 副世話人

[担当]東京都教職員研修センター研修部授業力向上課 指導主事 海老沼 寛之

平成 2 7 年度 教育研究員研究報告書 小・中・高合同・学校保健

東京都教育委員会印刷物登録 (平成27年度第197号)

平成28年3月

編集·発行 東京都教育庁指導部指導企画課 所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 電話番号 (03)5320-6849

印刷会社 正和商事株式会社